

学

年

通

信

令和3年2月号
2学年発行

誰かに元気を与えられる人に！

2021年もスタートして、一か月が過ぎようとしています。世界のコロナ感染者はついに一億人を突破しました。日本では11都府県に緊急事態宣言が発令されています。幸い私たちの県ではそれほどの状況にはなっていませんが、危機感を持ってしっかり感染予防を心掛け、生活していかなければなりません。

また昨年とは打って変わって予想以上の寒波に見舞われ三学期の始業式も遅れました。このような状況でも皆さんは検定試験合格に向けて毎日頑張ってきました。もちろん良い結果が出ることを望んでいますが、たとえ出なくても、この努力は必ず様々なことで自分自身のプラスになると信じています。

頑張っている人を見ると、「自分も頑張ろう！」という気持ちになります。皆さんのがんばりは自分以外の誰か、例えば親・兄弟姉妹・友達などの気持ちも勇気づけていることでしょう。私は最近元気づけられた人が二人います。一人は大相撲の大栄翔さんです。突き押しを武器に、前に前に進む気持ちのいい相撲は本当に応援したくなります。もう一人は水泳の池江璃花子さんです。白血病を克服して競技復帰し、オリンピックを目指す姿に勇気を与えられます。

〔写真〕12月の球技大会のようす

〔今月の目標〕

- 手洗いの励行
- 3密回避・換気励行
- 検定学習



（大相撲力士 大栄翔 勇人さん）

勢いのある攻撃相撲で新年の土俵を走り抜けた。闘志あふれるまなざしは、土俵を下りればすぐに優しくなる。大きな注目と無縁だった27歳の青年は「自分の相撲を取れば悔いは残らない」と信じた突き、押しで脚光を浴びた。

埼玉県朝霞市出身。126センチ30キロだった小学1年生から地元の道場で相撲を始めた。強豪の埼玉栄高に進学し、人生の軸が定まった。2年生まで目立たなかった。同学年が試合に出て自分はちゃんこ番。相撲部の山田道紀監督は「惨め思いもしただろう。ただ、神様は最後まで頑張る人間にはご褒美をくれる」と見守った。蓄えた努力を实らせ、3年生で全国3位になった。大学進学も考えたが、大相撲入りを決意。理由は親孝行だ。母子家庭で育ち、夜遅くまで働いて育ててくれた母恵美子さんの「強くなって、早く楽にしてあげたい」という思いがあった。2012年初場所で土俵を踏み、14年名古屋場所で新十両。仕送りで母を喜ばせている。昨年4月に日本大学大学院に入学し「ファミリービジネス」を学ぶ。相撲部屋の発展を土俵内外から考える文武両道の充実の日々だ。（北國新聞より抜粋）

〔2月のおもな行事〕

- ・5日(金) 大掃除・推薦入試準備(3・4限)
- ・8日(月) 休業日
- ・9日(火) 推薦入試(休業日)
- ・10日(水) 進路学習会(6限)
- ・24日(水)～3月1日(月) 学年末考査